

平成28年度日立市教育研究会先進校等調査派遣研修報告書

日立市立坂本中学校 教諭 沼野 健一郎

- 1 派遣期日 平成28年10月14日（金）
- 2 研修先 学校名（会場名） 埼玉県川口市立在家中学校
所在地 〒333-0836 埼玉県川口市大字安行領在家 272
<http://kawaguchizaike.blogspot.jp/>

3 研修内容

（1）内容選定の理由

増え続ける世界の人口から、国内の食料自給率低下の問題や全世界的な食糧危機の問題は、喫緊の問題として捉えていく必要がある。中学校の技術・家庭で学ぶ、生物育成に関する技術を様々な側面から捉え、適切に評価・活用する能力は、これからの時代を生きる我々にとって欠かすことのできない力であると言える。

今回の第55回関東甲信越地区中学校技術家庭科研究大会埼玉大会（以下、関ブロ）に参加し、これまで研究を進めてきた在家中学校の発表を参考にすることで、自校でも生物育成に関する技術について研究を深めていきたいと考え、今回の派遣先に希望した。

（2）埼玉県川口市の研究

第55回関ブロで、埼玉県では以下のテーマで研究を行っていた。実践により伸ばしたい力を付けた生徒像は、表2段目のとおりである。

研究テーマ：次代を担い社会を生き抜く力をはぐくむ学習指導の研究
・学習内容のつながりを意識した、意図的・計画的な働きかけを行い、世の中の栽培技術に進んで目を向け、自分なりの考えを表現できる生徒の育成。
・技術を多面的に捉える生徒の育成。

仮説として、以下の2点を挙げ、指導計画にきちんと問題解決的な学習を位置づけたり、与えられる課題の難易度を段階的に高くしたりするという手立てと、ワークシート等で学習の流れ全体が把握できるよう工夫することで、それらを実現していこうという研究であった。

仮説1：3学年間を見通した指導計画において、「生活を工夫し創造する実践的な態度」に迫るための問題解決的な学習を位置づけ、「働きかけ」を工夫すれば、社会を生き抜く力を育むことができる。

仮説2：本教科特有の言語活動の充実を図るとともに、生活を工夫し創造する能力と実践的な態度を見取るための計画的な評価の実施やその方法について工夫をすれば、社会を生き抜く力を育むことができる。

（3）実践

今回の関ブロでは各会場のうち、「C 生物育成に関する技術」を視察した。川口市では、始めに全生徒が「コマツナ」の栽培を行い、その活動を通して、下表のとおり基本的な知識・技術の定着を図る。最後に学習によって得たそれらの力を活用し、これからの生物育成について、「生物育成に関する技術の適切な評価・活用」を行う実践を行っていた。

（全12時間扱い）

時	学習内容	時	学習内容
1	身の回りにある生物育成に関する技術に気づき、その役割を知ろう	7	栽培の途中経過①肥料について考える
2	作物の生長に必要な条件を確認しよう	8	栽培の途中経過②病害虫について考える

3	生長段階における管理作業を知ろう	9	栽培の途中経過③栽培方法について考える
4	肥料について知ろう	10	コマツナ発表会
5	病害虫の種類と防除方法について知ろう	11	今までの授業を生かして栽培技術を評価しよう
6	栽培計画表を立てよう	12	今までの授業を生かして栽培技術の在り方・使い方を考えよう

当日の授業は、体育館を模擬教室に見立て、行われた。掲示物は、これまでの学習の流れや生徒の思考の変化が分かるよう工夫されていて、授業の導入や話し合い活動の際にも確認されていた。

最終的に思考をまとめる場面では、個人→集団→個人と思考を深める場面が与えられ、意図的に生徒一人一人の問題解決能力を高めていこうとする取り組みがなされていた。

4 感想

現在、茨城県でも3年後に関ブロを控え、研究の体勢をどのようにするか検討している段階にある。今回視察した川口市の研究では、全12時間の授業を、1時間ずつ市内のそれぞれの学校で受け持ち、研究したものをベースに実践が行われていた。それゆえ、通常は、多くの学校で校内に一人しかいない、技術科教師が互いに連携して1つの内容について検討することで、教師の側が内容に対する理解を深める良いきっかけにすることができていた。

実際に、会場では時間ごとにブースが設置され、担当した学校の先生が、それぞれの授業について熱心に説明を行っていた。その顔は一様に自信と誇りに満ちており、県を挙げての研究の在り方はどのようなものがふさわしいか、参考になった。

今回の経験を生かし、実践を自校化するとともに、茨城関ブロに向けて本県でも研究を深めていきたい。

